NOSE TOWN

第６次
能勢町総合計画
［概要版］

人・地域・地球の健康を守り
縁をつなぐ 開かれたまち能勢

～里山未来都市～

令和４（2022）年７月

町長あいさつ

持続可能な里山未来都市に向かって

この度、能勢町総合計画審議会から答申をいただき、本町の今後１０年間のまちづくりの指針となる「第６次総合計画」を策定しました。

今、社会経済活動をはじめあらゆる面で持続可能性が問われていると認識しています。

こうした時代にあるからこそ、地域社会のあるべき姿を描き、未来に向かって、しっかりと地に足をつけ、実行していくことが必要です。

私たちの生活空間を形成する本町の豊かな自然環境や温もりある人間関係は、健康長寿社会に不可欠な要素であると思っています。そして、食料やエネルギー自給率の向上を図るなど、時代の変化に対応しつつ、里山の資源を循環利用するモデルを創ることで、自律的で持続可能な未来社会に先着できる潜在力が能勢町にはあると確信しております。

私は、この「里山未来都市」の実現に向けて、第６次総合計画を全力で推進する決意です。

引き続き、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に本計画の策定に当たり、多大なご尽力を賜りました総合計画審議会委員の皆様、並びに貴重なご意見をいただきました住民の皆様、関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

令和４（２０２２）年７月

能勢町長　上森　一成

１　総合計画　Ｑ＆Ａ

▸「総合計画」って何ですか？

総合計画では、能勢町が目指す「まちの将来像」や「これからの１０年に大切なテーマ」を定めています。そして、それを実現するための町の取組の方向性を示すものです。

▸まちの将来像を教えてください！

大きく２つです。詳しくは３ページの７つのテーマをご覧ください。

＊人・地域・地球の健康を守る

「健康」を個人の問題として捉えるのではなく、地域社会全体を健康にすることを目指します。更には、豊かな自然環境を活かして、気候変動に適応したまちの実現を目指します。

＊縁をつなぐ開かれたまち

将来の移住者や能勢ファンに向けて町の情報が届くように発信します。能勢町で交流やチャレンジしたいと思う方々と地域の間がつながることで温かで賑わいあるまちの実現を目指します。

▸計画づくりにあたってはどんなことが議論されましたか？

専門家や町内の事業者、住民など多様な立場の方々にご参画いただき、令和２（２０２０）年１１月から計画づくりの議論が行われました。また、住民意見交換会などでも多数ご意見をいただきました。

企業誘致などの土地利用は大事。でも景観も……。

計画の考え方

バランスある土地利用が重要に

総合計画では「開発」と「保全」両方の方針を示しています。地域の個性が様々にある中で、開発か、保全かの二択ではなく、それぞれ調和のとれた土地利用を推進していくことが重要です。

そのため、住民が地域の将来像を考える機会の確保や活動の支援に努め、地域と共に行政ができる仕組みづくりを進めていきます。

「地区計画」といって、地域独自で土地利用のルールをつくる制度があるんだね。詳しい内容は役場に聞いてみよう。

移住に当たっては住まい探しに苦労される方が多い。農のある暮らしが実現できるまちになって欲しい。

計画の考え方

移住支援のターゲットを明確に

能勢町は都市近郊に立地するため、都市内での仕事を手放さずに農山村の暮らしを実現することもできます。地域企業への就業や起業、子育て、農のある暮らしなどを希望する方の移住の実現に向けて、空き家所有者への働きかけを行うなど空き家バンク制度の充実を図り、住環境の確保に取り組みます。

今後の課題として、空き家等の管理・利用を総合的に担う主体や制度の必要性についても意見があったね。

人口が減って過疎地域になったけど大丈夫なの。

計画の考え方

農山村地域には都市とは違う価値がある

今後、本計画を踏まえ本年９月に過疎対策の方針を策定します。本計画では、人口減少の克服に向けて、都市近郊にある里山の魅力や強みを生かし、能勢ファンと地域がつながる仕組みづくりを進めるなどオンリーワンのまちづくりに挑戦していくこととしています。

全国の約半数の自治体が過疎地域に指定されていて、過疎対策には国の支援制度があるんだよ。

2 「能勢のこれからの 10 年に大切な7つのテーマ」

これから１０年後の能勢をどんな〝まち〟にしたいのか。

課題や思いを町民の皆さんと共有し、これからチャレンジしていく「まちの未来」をイメージした「**7 つのテーマ**」を作成しました。

総合計画審議会メンバーが、能勢で未来に向けて取り組んでいる方々から、その熱い思いやご苦労を、現地で聞いてきました。そこでは、ネガティブなところとともに、ポジティブな話をたくさんいただきました。それらを参考に議論を重ね、以下の「７つのテーマ」が生まれました。

（能勢分校生が考えるまちづくりの提案）

（若手農業者へのヒアリング）

Theme01　地域社会の創り手を育むまち

（写真：能勢ささゆり学園の一コマ）

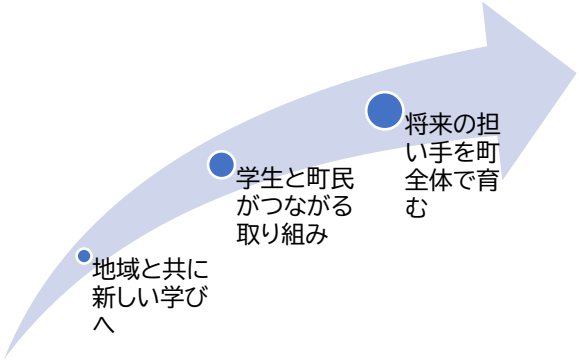
（写真：豊中高校能勢分校の様子）

・・・ ひとこと ・・・

能勢分校在校生

私は今、大学入試にチャレンジしていますが、大学で学んだ後は能勢町で活動して何か貢献できないかと考えています。
すでに、大学生の先輩たちがそんな思いで活動していると聞いています。一緒に何かできるのではないかと考えると、わくわくします。

未来へ・・・現状と方向性



Theme02　人の輪が広がるまち

（写真：東郷地区のだんじり）

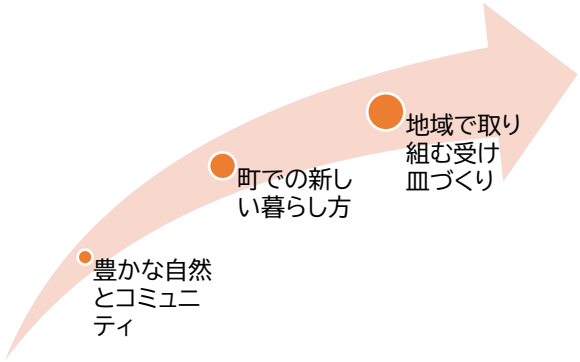
（写真：笑顔があふれるのせ保育所の子どもたち）

･･･ ひとこと ･･･

新規就農者

住まいを確保するまでの難しさはあるが、自ら地域に飛び込んでいけば受け入れてくれる。
何事にも自分から自発的に取り組める人、そういう人にとって能勢は可能性のかたまりではないでしょうか。

未来へ･･･現状と方向性



Theme03　健康で生きがいをもてるまち

（写真：能勢町健康長寿プロジェクト〈のせけん〉）

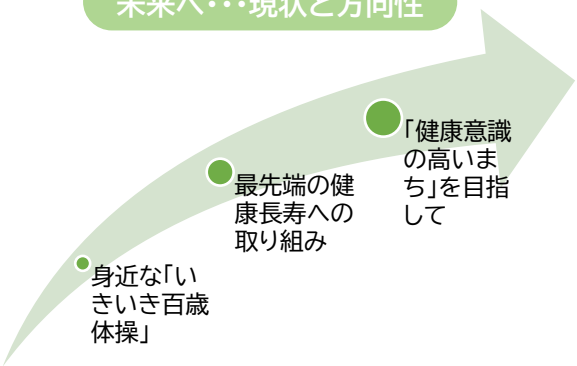
（写真：地域に広がる「いきいき百歳体操」）

･･･ ひとこと ･･･

審議会委員

能勢はすばらしいところで、大阪府下では 介護保険料はどんどん上がっているのだが、その中でここ数年、変わっていないのは能勢町くらいだと思う。

未来へ･･･現状と方向性



Theme04　里山を守り･生かすまち

（写真：能勢の秋の風景）

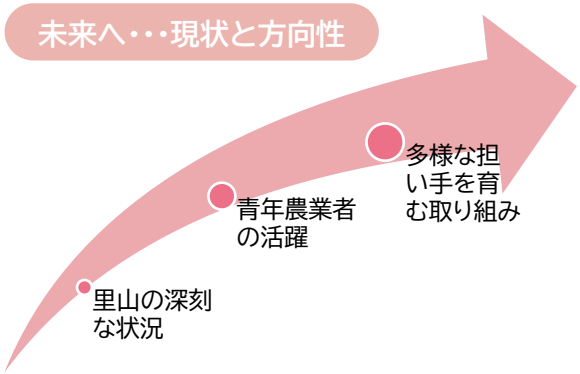
（写真：「里山技塾」栗接木・剪定講座）

･･･ ひとこと ･･･

里山技塾メンバー

農家といえば専業農家を指すことが多いが、兼業や援農といった副業的農業を暮らしに取り入れる「小さな百姓」も貴重な担い手。
丁寧に育て、多種多様な「農家」が集まる町にしたい。

未来へ･･･現状と方向性



Theme05　働く場所が多様にあるまち

（写真：能勢町商工会の皆さん）

（写真：野間の大けやき前の屋台カフェ）

･･･ ひとこと ･･･

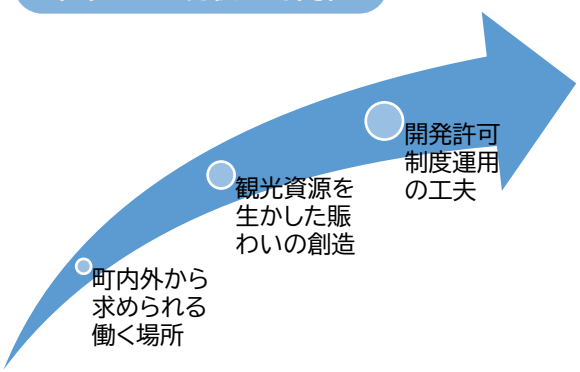
審議会委員

迎え入れる側がどう迎え入れるのかのバランスを示さないと未来は見えてこない。

審議会委員

能勢町の地の利はよいと聞いている。ただ、企業誘致をするに当たって中々土地がない。

未来へ･･･現状と方向性



Theme06　安心して移動ができるまち

（写真：広域移動を支えるバス交通）

（写真：通学課題の解決に向けて E-bike を活用する高校生）

・・・ ひとこと ・・・

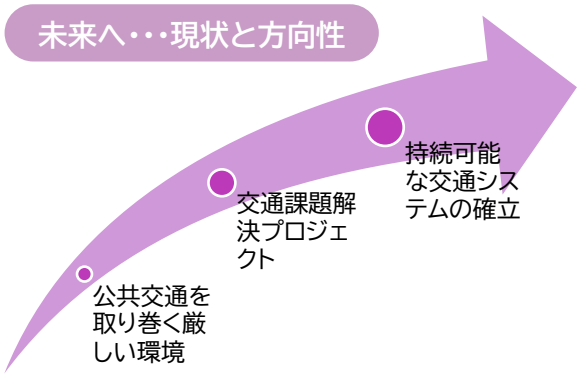
審議会委員

路線バス減便の一番の原因は、乗ってもらえないことである。みんなで乗ってバスを残そう！

審議会委員

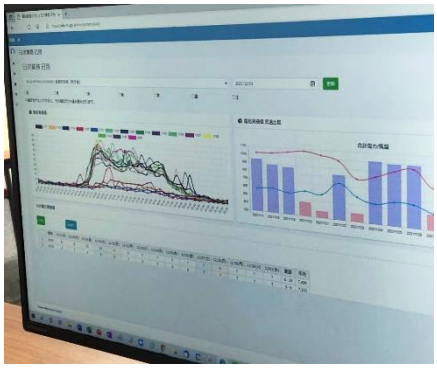
遠くの高校に通っている場合、帰りのバス（最終便）に間に合わなくなってしまう。今は日曜日にはバスが走っていない。

未来へ・・・現状と方向性



Theme07　地域エネルギーで自立するまち

（写真：木の駅プロジェクトで集められた木材）



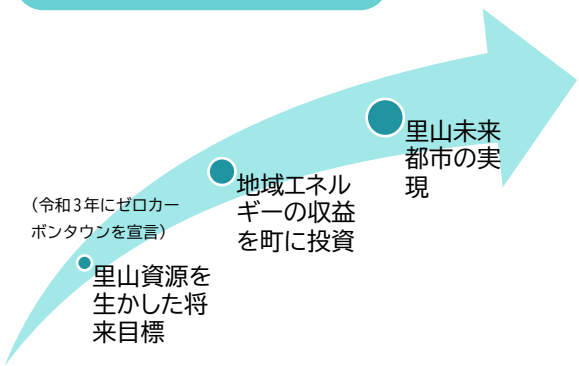
（写真：公共施設の電力使用量を見える化）

・・・ ひとこと ・・・

審議会委員

これまでエネルギーは外部に任せきりにしていた。エネルギーやデータ、お金を地域で回していくことは、地域を健康に戻す、自分たちの手に地域づくりを戻して考えていくことだと思う。

未来へ・・・現状と方向性



3　基本構想

将来目標

人・地域・地球の健康を守り
縁をつなぐ　開かれたまち能勢

計画では、地域内外の「縁」を創造し、増やしていくことで、つながりや支えあいが広がり、温かで賑わいがある開かれたまちを目指します。

里山の自然資源や人間関係の資源を基軸として、人と人、地域と地域、街と里の多様な縁をつなぎ、新しい関係性を創造していくことを目指すものです。

多様なパートナーとともに相互に資源を補完し、支え合い、高め合うことで、自立的で豊かな生活空間を創造することを将来像とします。

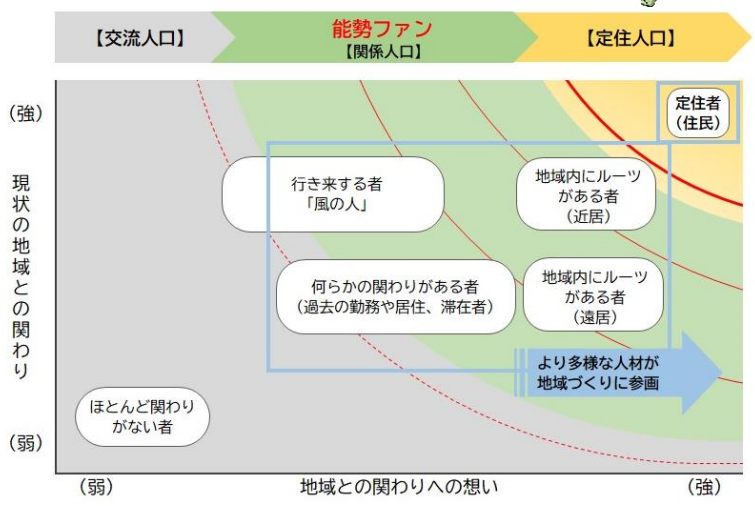
地域の暮らしを支える土地利用については、それぞれの地域の個性をとらえ、守ること、新しくすることのバランスを大切に考えます。

そして、コミュニティベースで健康づくりや暮らしの質の向上を考え、一人ひとりが大切にされ、人々が健康でいきいきと人生を謳歌することのできるまちの実現を目指します。

4　将来目標実現のための基本方針

本町では、今後、人口減少、少子化・高齢化への対策を重点的に実施するとともに、特に、「**能勢ファン**（関係人口）」に着目し、地域住民に加えて、本町に想いを寄せる地域外の人材との継続的かつ複層的なネットワークの形成に向けて施策を重点的に展開します。

出典：「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会報告書－「関係人口」の創出に向けて－」（平成３０年１月　総務省）を一部変更



5 施策の大綱

施策大綱	施策の主な方向性
人材育成・サイクル	• 多様な関係者・協力者と連携協働し、地域資源を活かして持続可能な社会の創り手をはぐくむ先進的でかつ実践的な学びの機会を創出します。また、いったん能勢町を離れても再び戻ってきたいと思える町、地域に心の根を張る人材育成に取り組みます。 • 能勢ファンと能勢町を継続的につなぐ体制づくりに取り組みます。
⇅ 連携	
ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）	• ライフステージに応じた健康づくり（「運動」「栄養」「社会参加」）の支援を通じて健康寿命を延伸し、住民一人ひとりの豊かな暮らしの実現を目指します。 • 多様性の尊重やコミュニティのつながりづくり、また子育てや福祉、自然環境等のまちづくり分野を含めて住民主体の観点に立った総合的な健康づくりの取組を推進します。
⇅ 連携	
地域経済の活性化	• 観光、農業、製造業など、地域の特性を活かして域外から稼ぐとともに、域外から稼いだ資金を地域発のイノベーションや地域企業への投資につなげるなど効率的に域内で富を循環させる地域経済の構築を目指します。 • 多様化する価値観やライフスタイル・ワークスタイルを踏まえ、誰もがその力を発揮できる就業環境や自分の居場所を見出せる環境づくりを通じて、しごとの場であり生活の場である地域全体の魅力を高める取組を推進します。
⇅ 連携	
脱炭素化・強靭化	• 2050 年までにゼロカーボンタウンを目指します。2050 年以降にはさらに一歩踏み込んで、CO2 吸収タウンを目指します。 • 住民の誰もが里山資源の使いかたを理解し、災害時には里山資源を用いて、ライフライン等の被害からいち早く回復できる災害に強いまちを目指します。 • エネルギーを大量に消費するのではなく適切な量を無駄なくつかう仕組みづくりや食料自給率の向上など地域資源を活かした自立分散型のまちづくりを推進します。
⇅ 連携	
自治体経営における資源配分の効率化	• 持続可能な行政サービスを提供するための必要な経営資源を確保するために、行財政運営の見える化や地方公共団体の連携・協力等による地域の枠を越えた連携、地域の共助組織との連携、民間サービスの活用等による組織の枠を越えた連携、行政のデジタル化等による技術を活かした対応など、新しい日常をけん引する効率的な自治体経営を行います。

6　まち･ひと･しごと総合戦略（重点化目標）

能勢町では「第６次能勢町総合計画」の重点化目標として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を位置付け、一体的に施策の推進を図ります。

※「能勢町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27(2015)年策定)」を見直しました。

■第２期総合戦略で新たに始める取り組み

未来の能勢ファンと地域の間がつながるために

第 ２ 期総合戦略では、今は能勢町に住んでいなくても、能勢町のことを知って、地域を知って好きになって、縁がつながるような、そんな「能勢ファン」になる人と出会う機会を増やしていくことを大切に考えています。地域に生きる人々の実践や思い、これまでに生み出されたモノやコト、新しい縁のために必須となる地域情報を、的確に発信することが重要です。

総合計画審議会では、能勢ファンと地域のつながりをサポートするために、目的意識を持って情報発信していくことの重要性が指摘されました。

例えば、

・どんな人が移住しているのか

・移住を決めてから住まいを見つけるまでのストーリー

・能勢町にあるお店の情報や商品開発に込められた思い　など

第 ２ 期総合戦略の策定を契機として、こうした情報をホームページや SNS、イベントなどを通じて発信したり、ウェブ会議システムを活用して交流の場を設けたりすることで、能勢ファンの拡大と地域とのつながりづくりに取り組みます。

本町の将来像「人・地域・地球の健康を守り　縁をつなぐ　開かれたまち能勢」を実現するために、情報発信に特別に取り組みつつ、５つの重点化目標を定めます。

未来の能勢ファンに向けて 情報発信のスタートを切る！

特別KPI　2022年度中に1回は発信する

重点化目標１	次世代を担う人を育て、結婚・出産・子育ての希望をかなえる
重点化目標２	地域外の人との関わりを深め、人の流れをつくる
重点化目標３	地域資源を生かした自律的なまちをつくる
重点化目標４	住み続けられる魅力ある地域をつくる
重点化目標５	必要なときに情報を受発信できる仕組みをつくる

「地方創生」は人口減少を克服するための国をあげた取り組みなんだ。
地方創生に関する基本的な方向性を「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で示しているよ。

能勢町　第６次総合計画

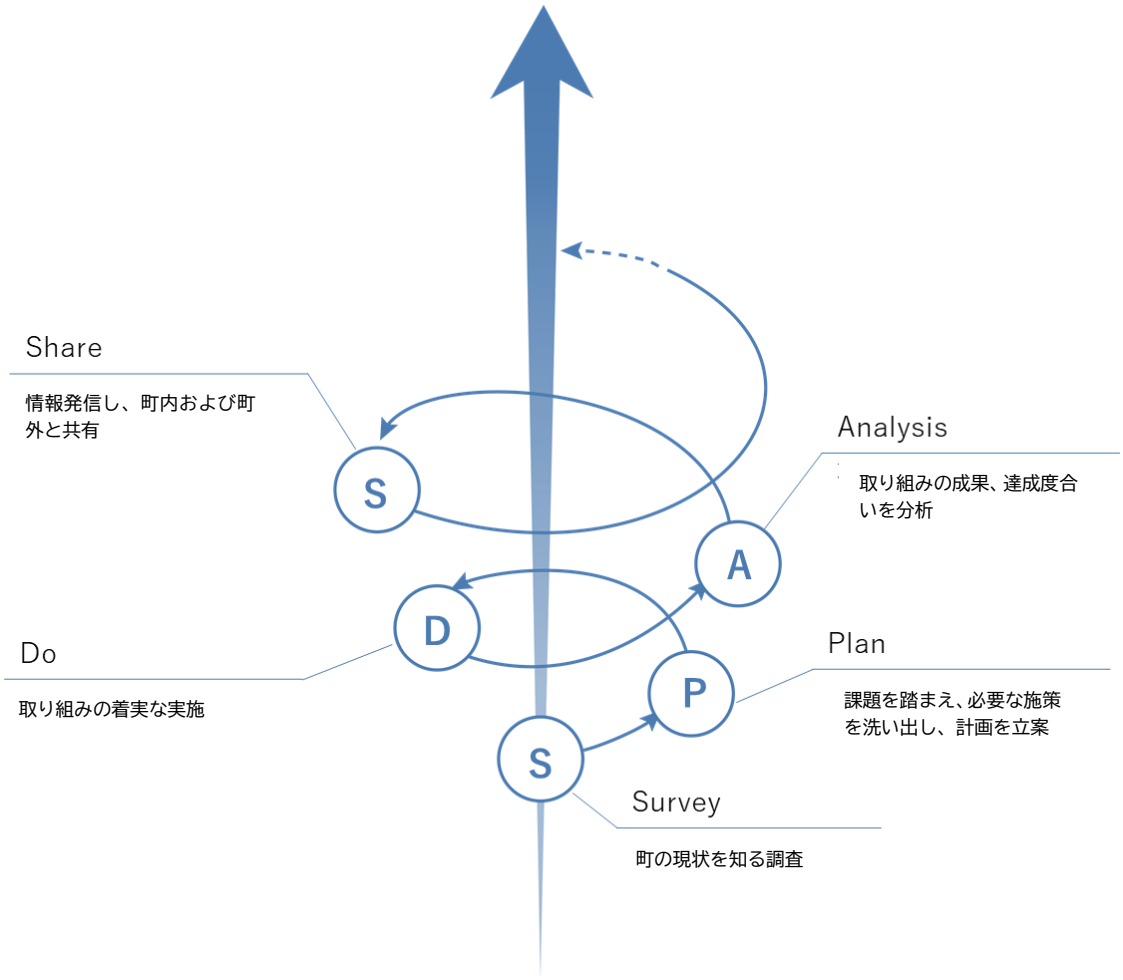
詳しい内容はホームページへ。

7 計画の進行管理

本総合計画の作成に当たっては、審議会を設置し、関係する様々な方へのヒアリングなど、綿密な調査（Survey）を実施するところから始めました。

その上で、審議会メンバーで町の課題検討や、基本計画として示すべき個別施策に関する様々な議論の末、計画の策定（Plan）に至っています。今後は、計画に位置付けた、それぞれの取り組みを実行（Do）していきます。

検証評価は、単に数値を確認するだけでなく、達成度合いに対し、そのときの状況を分析（Analysis）し、原因を考察します。その結果を踏まえ、事業を改善し、質を向上させつつ、町内および町外へ共有（Share）していきます。



■スパイラルアップイメージ

第６次能勢町総合計画［概要版］

SDGs未来都市 能勢町

【発行】 能勢町
〒563-0392 大阪府豊能郡能勢町宿野 28
TEL：072-734-0001(代表)
http://www.town.nose.osaka.jp/